



日本共産党 池浜あけみ 24



問児童生徒の悩みは多様化しており、相談体制の人員の増加を含めさらなる支援が必要と考える。今後の市の取り組みは。

考える。

不登校に関しては、学校内外の学びの場や地域で相談できる場の拡充を図る。その他、多岐にわたる悩みに対しては、学校や教育委員会のみならず、市全体、社会全体で対応できるよう関係各課と連携する。

答教育長 子どもたちの健やかな成長のために、人材の確保はもとより、これまで以上に学校と共に関係各機関や多様な専門家の支援による悩みをしつかり受け止める教育相談体制が必要であると

問教育相談の充実
初雁公園整備の見直し



日本共産党 川口知子 25



問女性トイレに当たり前にある「サニタリーボックス」だが、男性の個室トイレにはない。市庁舎など公共施設の男性トイレに設置の考えを伺う。

施設ごとの実情がそれぞれ異なることから、個別に施設の状況等を判断しながら検討していきたい。

答総合政策部長 公共施設にサニタリーボックスを設置することは、利用者の利便性の向上となることから、多くの施設へ設置していくことが望ましいと考える。しかし、



問地球温暖化対策
公共施設のトイレ



日本共産党 今野英子 26



問川越シャトル特別乗車証の無料対象年齢を90歳から80歳に戻すべき。公共交通の充実は、高齢者の移動支援につながるかと考えるが市の見解は。

際は、通常より安い運賃で利用できる制度がある。既存の民間事業者が運行する鉄道、バス、タクシーとそれを補完する川越シャトルやかわまるが一体となり、公共交通として持続的な運行、利便性の向上が図られるよう取り組んでいく。

答都市計画部長 本市では、既存の公共交通機関を補完する交通として、市内循環バス川越シャトル、デマンド型交通かわまるを運行し、共に70歳以上の高齢者が利用する

問高齢者の移動支援
公園整備とトイレ



日本共産党 長田雅基 27



問引きこもり支援の中心となる部署を設置し、途切れることなく一貫して支援すべきと考えるが、市の引きこもり支援の取り組みは。

携を密にしている。また、今までも実施しているが、医療関係、教育関係、経済関係、労働関係、福祉関係などさまざまな角度から包括的な連携を図っていききたいと考えている。



答保健医療部長 本市では、年齢に区別なく、保健所が引きこもり相談窓口となっており、相談内容に応じて、自立相談支援センターや若者サポートステーションなどと連

問引きこもりの体制整備
荒川調節池
川越駅西口周辺整備



日本共産党 柿田有一 28



問高齢化と健康のため身近な地域を歩く機会が増えているが郊外では歩きづらさを感じる事も多い。健康を支えるまちづくりを目指す市の考えは。

ースマップの作成など、歩きたくなるまちづくりに取り組んでいる。まちづくりには、職員がまちを歩き、視野を広げることも重要である。さまざま視点を取り入れられるよう、研さんを重ね、より良いまちになるよう取り組んでいく。

答都市計画部長 本市では、歩いて暮らせるまちづくりを推進するビジョンを掲げている。歩いて外出する暮らしは、健康づくりに寄与するものと考えており、川越百景コ

問投票率向上の取り組み
インボイスによる影響

議会情報

議会運営委員会

今定例会において、新たに3名の委員の選任および委員長の出任がありました。

6月30日現在の委員は

- 委員長 片野広隆
- 副委員長 吉敷賢一郎
- 委員 樋口直喜
- 明ヶ戸亮太
- 嶋田弘二

消防組合議会議員

1名の欠員が生じたため、6月28日に選挙を行った結果、次の議員が当選しました。

- 海沼秀幸
- 今野英子
- 柿田有一
- 中原秀文
- 小ノ澤哲也
- 川口啓介